鈐録

和書門
一七三八九
二〇

内閣文庫
和書
一七三八九
二〇
一八九函
一三架

兵法
八三

内閣文庫
番號 和 17389
冊數 20（1）
函號 189 348

安政乙卯新刊

鈐録

郡山藏板

刋鈐録序

甲寅之冬郡山有司謀刋鈐
録並之體
國家振武之意也物士綏謂
濟曰昔吾先君子談兵參諳
彼此發百家之秘揚確步以立

浅草文庫

一家之説既已藏之名山矣乃
郭翁所記具矣其附三巻者
亦既烏有而藩有司將以公
之天下也昌也竊惑焉濟曰
有之哉藏舟於壑夜半有力
者負之夫子之山斗於天下也

片言隻字不見遺家傳戸
誦以為金科玉條焉則名山
之藏石室之秘終不能為造化
者之有矣而獨斯編之不亾以
至于今者抑亦有命也夫且先
夫子之於諸家務抑空言而説

實理以明大事之不可輕談兵勢之不可固守焉故所刺譏皆中其病而又憂國之誠藹然溢乎紙表若視今日於百載之上者則吾子未猥許刊行者蓋有所畏也享保十四年

德廟使道濟上遺書獲斯編大説殊賜褒賞載在府庫之典而後往往出乎人間是既不爲造化者之有也雖然至治之世人猶未或省焉方今海船入港若伺隙者頻頻不絶

是以
國家外隆懐柔之恩内嚴膺
懲之備爰修戎政月令日戒
以誒維揚於不虞焉於是擘
山之煩暴辯之殫堡守野戰
之東累手林萃山積運搏

之使黠狡之捷抑前古所無也
豈不盛事哉乃兵家者流之
固守舊轍者亦將漸移而士子
所朝夕習誦孫呉韜畧所日
月操練旌旗金鼓是皆文字
之所教之致意乎百年前者即

使夫子生斯世當斯路必將抽
秘百端愈出愈奇手携耳
提諄諄手叩而竭焉尚何藏
子名山之為哉夫子之自惜正
為今日也然則雖微有力者
而已天下其誰舍之命也不可

以不惠天下也乃有司者之舉
非獨體
國家振武之意焉抑亦獲支
子之心者非耶且齊聞之神物
必有合此書一出則附録將或
至亦何惑焉遂為之序若夫

斯書之所以為斯書也曷俟
予言
安政乙卯春三月
服元濟謹撰

鈴錄序

余讀斯録愈益歎徂徠先生真儒
而王佐才也先生不謂乎六經之道包括無
遺故觀古於六經者聖人得不亡觀六經
於今者聖人可復生先生之於六經固謂

其壼奥矣謂古之人見用入則御出以將
故軍旅之事君子所當学也乃有此
錄矣而有故不遂公殆百餘年近有外
夷之警而後
國家備不虞益急矣諸侯敎其國人

所以扞内外為保障於
國家者亦甚勤矣以為備夷之方莫如艦
與砲也於是乎瀕海之内家談人說上
勇嗜武技擊相高曰我善為陳我善
用兵單相扼腕也然而承平之久遂景

譽得名然者亦不無一二於其間也是
録也專主明之戚氏與
本邦甲越二家旁及其他而折衷乎
孫呉論定於六經上者制賦下逮水陸
而施設之術莫不兼備也豈既知預防未

然於百年前者歟蓋此其見悉六經中出
而乃以孫呉以下為周官大司馬傳註者也
則聖人可復生者是驗之於茲則貝緝先生
真儒而王佐才者不其然乎方今
國家命諸侯級造大艦大砲亦非時矣乎

韓退之曰時者國在上位者之爲也乃在上
者則不制賊偏伍一遵斯録所述亦胡難
爲翁以此教必能使其砲運用如神其艦
折旋如活其常武技擊精真可踏水火而
六花八門變化奇正亦在其中矣則其稗益

守備國不俟余言也若但謂是瑣々國
字書而徒讀之則其悞國馬服之子
不啻也茲録百餘年不上梓郎郡出藩
仰體
國家備預之意將惠諸世而刊之其邸嗚呼

亦時矣哉
安政二年乙卯仲秋
出雲府鶴城守佐美光謹叙

鈴録序
古に祀と戎とは國の大事なりといへハ
周官の制度にも六卿を以て國の政務
を司る事なるに出征の時ハ六卿則六
軍は大将たるといへり又出征の時ハ成を
学に受とて軍法を定むるハ学校に
納置て出陣の時ハ学校より古法を受

ることなりされは聖人の道ハ治国なる
にて軍旅ハ治国の大事なり其国
乃興亡も係る所なるを此一擧にあると
知れハ聖人此道を学ぶ人ハ是を講ずる
所得なれバ是をおもひて孔子ハ我戦へハ
必克と仰られし也又孔子此魯国へ返
り給ふ時ハ斉魯此戦の時孔子の弟

子冉求が軍法にて魯国勝られしより
なり上古ハ左のごとく文武二道なれ
されバ後世学問衰へて聖人此道を
学ぶ事業軍旅の経を知るの甚誤り
事なり殊に宋儒の学問盛りて王
道此師(いくさ)といふ事と説て無学に計策の
いひさるを古湯武乃軍にハあるき事の

様にいへるも文武全く二つにならす儒
家にて名を得たる人までも西晋の杜預羊
祜東晋の謝安謝玄宋の范文正明の
劉伯温王陽明ハさらなり名将の名を
擅にせり又
我國の軍法ハ本ハ大江の儒家に伝へしを
匡房より八幡太郎に授けたるなれハ

儒者ハ能さとも軍旅を志して不叶又
武将たる人も文学なくてハ不叶事なり
和漢治乱古今の迹を考へ知れハ
吾國の軍法ハ唐朝の軍法を伝へたるに
まて當時諸家にいへるとハ遙に別なる
事なり其父祖二代医師となりし上に
此文学倒と家業とするとなれハ先祖

物部乃姓をけづりて參州の城主なりしも
祖母母もこれ將種なりと私にハ自讃せり
おのれもとをこそがゝりしかれバ甚餘習身に
染ミて幼少より武義を好み讀書并
兵手間にも人とりえたる用ふ文祖父の東
教にまかせしハ　御入國の頃まで名を
揚る物師ともいみまでハ多く交りし者

物語とも實に勝見ゆる文好めるが故に
我國諸家の軍法をも粗こ學び異國
の兵書をも多く讀よりはるか當代法
家の軍法といひても戰國名將のわれ物
師の物語よりつきたる物なれとも師も
言て人に教ふるより四字を書て著す字
を企徳さんとて多くハ寛永以来より

寛文の頃迄の人は坊補もて教授せり古
平は人乃兵法ならひたるなる家業より
父祖は時より家に傳りたる古き物語
とはあらぬ事は黜友なき
我國の武士は殊に文盲なれは戦國の
時分よりは武風殿に後れき世となりし様
も次第に替りて今は大形武道は地に落

たる様なれとも其を専ら人なくて當代
軍者は以て説を信して戦國の時より
かくのことく傳ふるなりと傳ひとも
人の多き也當初
照宮は御時に軍法者といへるは小井伊
掃部頭殿の家来に岡本半助といふ者あり
此軍法は訓閲集といひて七十巻程なれ

ともに雲氣軍配り箙鞭笄当旗幕
母衣の仕立様捷字陀羅尼九字護
身法まずなひまで隠めたる物まで合戦
始事ハ僅に畧も書あてハなしそれも
勝のかに出てなるてとまで當時も見
れとも何れ國々色々なる者あり家系本祖父
より探是を傳へてあく知り姓されもせ時

今ハ軍に訓る名將勇士世界にみちて
これ大軍此仕様ハ朝夕の家常茶飯
までも相手に及ぬとなり只戦國の時ハ
生死のちまた出る所なれハ佛神を
信すること名將勇士とてもさ様るたる
故右様のことゝあるゆへ軍法と見るハ
時代にはなれて甚古き事なれハ軍法

しかるに此盛に定まりたるハ天草陣の後
戦国も遠のきて軍法は往様不案内に成
たる代に松平伊豆守殿小幡を師とし
学をはじめらるより武田流といふの代にまた
取り出て其風ましして軍法右といふ名
世間に多くなりし様々乃流儀あれども
其名と有る人ハ軍竟信玄謙信

二流の外に不出二流といふも實ハ小幡
北條山鹿兩家の流儀にて二ツ此流にハ
能きも取其家々に傳りたる戰國の
物師此物語とあるなれハ其家のまたり
其家に傳りたる物語ハ皆物師乃
子ども此又祖に附き又先頃の物師あり
ちなみて聞ける噺まて其是を語るる

治世に武義を好むが奇特なりと思ふ
人あまた庭訓の分持にてよひたるやうそ
知らぬことをハ志らぬとして事をつだな
かして飾る人ハ毛頭もなき真実なる
物語にて軍者と云ふもの説とハいへり
雲泥の違あれバさは軍者が説も
本物師の物語より出るやうなれバよき

ことも若年なる身なれハ一向に端ひ棄
見合たるまで出彼是と参考して取捨
あまねくつきとなり近くハ元就早雲信
玄謙信信長大閤より
御当家迄武風此段に編りもりしことを
考へて実説の内にも前後の相違ある
ことは知るべき事なり抑て軍法と軍略と

ハ別の事なれバ軍略と云ハ謀略なり謀
略ハ其将帥の器量によりて上も
なき物なり是ぞ至極に謀略といふもの
限ありて行る事に能ず是によりて口伝
授に及ざる事なり何程口伝授し
たりとても不経すれバ却て多岐の惑と
なる也別して事に到る時ハ口伝ずとても

有る出来て湧出る物なれバ和漢ハ
古戦の物語を吟ハんハ益なきにハ非ず
趣軍法とハ云ハ節制の事なり卒伍の
組様より兵営城組合を人数扎手配備を
立て合戦乃仕様備々節調合の作法
行軍営陣より兵粮の手当武器の仕形
に至まで口伝授有て三年竟の変士卒を

よく修錬させて如何程の大勢なりとも手足の
ごとく自由に取てまはし乱れざる様にする
仕形なり軍略拙けれバとて軍法調わ
ども必勝事を得がたけれども軍法調され
ハ人数手にいらされバ手もなくて敗軍に至
やすけれハ軍略ハ然重なる兵制ハ修錬
するなり異国にも兵書も七書ハ軍略を主として

兵制ありし明朝にも名将兪大猷戚南塘
が書ハ専ら兵制を説て軍略をバ次とし又
吾国近代の諸名将ハ何れも軍略の名人
なれど節制を知給はず是によりて異国に
書なり
吾国にも軍立を疎かにして軍に法なく人々
自我となるところより戦国の時分ハ士卒

勇猛まで壱つも軍に列する故士卒は勇
猛を以て合戦をして異国のごとくなる法は
なしといふ事なり今小幡流を称するた
ゞ軍略計まで軍法なし北條山鹿などは
軍法は称なるのみにて又謙信流は専
軍法計まで軍略なけれバいづれも信
玄謙信は末流に能きを近事にて異国の

出とみえたる事まれ也付係る事ありされ
ども北條山鹿諸君が輩は学問ありて異国
の書乃理を論程なる学問に能された
甚付係なる軍法は而知もあるより
軍物師の物語をきゝて戦国の時分の
大将将また当時軍者のいふがごとき
人なる人に能す当時乃軍者の眼より

夫れハ甚意外に怠惰なる様なる人多
く平生の変ハ頃刻にて生死の場に
到る故何時も先達て機轉備へさする
ざれバ兼て士卒を剛に健なる事にし其時
は武士のこゝろ能ず日常なれ居るの事
熟くる様なる物なれども戦に訓る
者なる故軍法なけれバよく思ひ合て

ゆへとすべきなり去れハ当時兵を学
ひぬとも将も士卒も其時代と替りぬれハ
軍法ありてハ其時代の将士に思ひ合
たる働ハ為て成がたき事なれバ文清
西家は拘師との法り傳を以てハ大明
の備ニハ大事を自由に取回らする臨機
変なとし

日本まて終に見えさりけるにやありといふされ
とも大明ハ万暦年中にて治世既に久しく
なり朝鮮へ来る大将も左まて其志もあらん
日本乃兵ハ将も士卒も乱世に馴て静ならさ
たる御事なれハ百戦錬磨よりすくれたれ
さる者ともなりけれとも大明の勢ハ遂に
て敗少に及ひしハ是軍法なきと軍

法なきとの差別なりけれハ治世にも
於て軍とせは節制の法に遠くハなす
甚しき物好事甚なる類を以てくらべ
見る時ハ治乱得失も雑ハ明らかに見ゆるの
事也乱ハ乱れなりと見ゆるハ法の道
なるを以てなる時ハ各其経略なる
とも敗ハ其国の乱矣ハ

日本ハ弓矢を以て是を誅し
り其の弓矢ハ異國ハ弓矢を以て是を
誅せられたる古ハ弓矢見之かくのごとし故に
今此書ハ戚南塘が軍法に信玄謙
信流とを押合せて評判を附て
指置あり此三流の相違あるを以て
工夫の上をかけて得と吟味して正しき手

にとゞく様に一生弓矢を家とし其底に
おとし極甚長方と時代に合せて其妙
様とも兩々此覚悟候事に弓矢取る
べき事なり極て勝負ハ時の運なるを
事とするといへハ人間にも能ず人にほこり
利口をまじへつる者もあり以口家覚悟
を極めて力に及ぬ人にかなふ程の働を

せんより武門の嗜なる事ハ当時世間
にはやる諸流と云ものハよそならず
軍法ハ大様なる物と格式作法の様
に覚え居る也未熟なる人ハ肝心の時に至
て何の用にも立ぬ現なり和漢の古
法を多くに比べ見て極密の事ハ兵
要の覚悟の事其時其場其身代

其国の風俗を考へて人〻をいに仕組
を極めて日本の様なる備なれば たとひ運
も少すくて勝利を得ざれども更に崩れなき底
まで謀急ハなる家なりと存する也変
是又存当也此軍法を尤と存なる
人々は此書物伝授あるべきものなり
軍学をせずして事に必ず勝と存ずまじき

人ニ是傳授ハ有害無益之事也

享保十二年丁未正月

鈐錄目録

第一卷
制賦付土着并武士之不忘本事
第二卷
兵制
第三卷
職制并選兵
第四卷
編伍
第五卷
懸令　賞功

第六卷
行軍　候探　烽燧　粮餉
第七卷
营地　营算　营制　营規
第八卷
陣法上
第九卷
陣法下
第十卷
教旗上　發放　車操　騎操
第十一卷
教旗下　車騎合操　步操　比較　俞大猷大同車操
第十二卷
戰法
第十三卷
戰略上　用寡　用衆　上戰　客戰
第十四卷
戰略下　阻水　天時　夜戰　伏　陰書
第十五卷
城制上　選地　經始　度數
第十六卷
城制下　曲折　城池　門　樓臺　墻　橋　雜制

第十七巻
守法上　約束　措應
第十八巻
守法下　需備　堡約
第十九巻
攻法　措應　需備
第二十巻
水法　本邦　課造　船行
船制　船戰　編伍　附録
船営　懸令　濟水諸器　水操　禁渉諸器
戚南塘水軍法

鈐録目録終

鈐録第一

物茂卿著

制賦付土着并武士之本ヲ不忘事

兵賦ト云ハ軍役ノコトナリ軍役ノ割ヲ定ムルヲ制賦ト云是建國ノ大制ニメ軍法ノ根本ナリ何ントナレバ平時ニ於テモ天子ヲ萬乘ト號シ諸侯ヲ千乘ト號スルコト古ノ法ナルユヘ諸侯ノ國ヲ建立スルニハ兵賦ノ多少ヲ定メテ是ヨリメ万事ノ制度ヲ建立スルコト聖人ノ道ナレバ建國ノ大制ナルコト明カナリ最軍法ニ至テハ先ツ人數ノ総高ヲ知ラズメハ何

二因テカ戰守ノ畧ヲ運サン孔門ノ賢者子路ハ政事ノ科ニ稱セラレ將軍ノ材ト令尹子西モ譽タル人ナルヲ孔子ハ千乗之國可使治其賦トノ玉ヘレバ兵賦ノ事ハ軍法ノ根本ナルコ明カナリ三代兵賦ノ制公侯ノ國ハ山川都邑ノ地ヲ除テ田地バカリ方百里ノ地ナリ方百里ハ一万井ナリ一井ノ地ハ田地九百畝ナリ一畝ハ百歩ナリ一歩ハ八尺ナリ周尺ハ今ノ曲尺ニテ七寸二分ニテ八尺ハ五尺七寸六分大抵一歩ハ今ノ一坪ナレバ百畝ハ三町一井ノ田地二十七町然レバ方百里ノ田地ハ二十七万町此方ノ

升目ニシテ大抵一町十石ト積リテ一井ノ石高二百七十石ナレバ公侯ノ國ト云ハ二百七十万石ノ大名ナリサレドモ租税ハ什ガ一ナレバ現米三十万石ホド四物成ニシテ七十五万石藏入ナリ殘テ二十四万町ヨリ出ル兵賦三軍ノ人數三万七千五百人ハ八万夫ノ家ヨリ出ルナレバ大抵八万ノ半ヲ取テ四万ナリト見エタリ伯ノ國ハ方七十里右ノ割ニシテ田地四千九百井大抵方百里ノ半分ナレバ百三十五万石ノ大名ナリ藏入現米十五万石ニシテ四物成三十七万石四万夫ノ家ヨリ出ル兵賦二軍ノ人數

二万五千人子男ノ國ハ方五十里右ノ割ニ〆
田地二千五百井大抵方七十里ノ半分ニ〆六
十七万石ノ大名ナリ藏入現米七万五千石四
物成ニ〆十八万五千石二万夫ノ家ヨリ出ル兵
賦一軍ノ人數一万二千五百人右ノ方百里
方七十里方五十里ト云モ大槩ノ數ニテ大抵
田地六町ニ軍兵一人出ス割ナリ秦漢以後
ハ郡縣ノ世ナレバ民ヲ募テ兵トスルユヘ兵
賦ノ定法ナシト知ベシ而ルニ吾國軍役ノ
懸リ當時一万石ニ二十六騎ト云ヘ𪜈其根元
ヲ知ル人ナシ其起リ吾朝ノ古法日本國ノ

軍兵ヲ三十三團ト定〆一團ノ兵大抵一千バ
カリ一團ノ將ヲ太毅ト云ヿ令ニ見エタリ團ト云
ハ軍兵ヲ屯スル所ナリ奥州ニ七團アリ筑
紫其外ノ國々關々ニ布列〆設ケ武士交替
〆屯スルナレハ此事ヲ日本六十六箇國三十
三万騎ニテ一万騎ニ武者所一人是ヲ團取
ト云大抵十番ニ交代スル積ニテ一團ヲ二万𪜈
云フ大中小國ヲナラ〆一箇國五千騎ト兵家
者流ニ云習ハスモ六十六箇國三十二万騎ノ
説ニ本ヅクナリ一團ト云ハ本異朝ノ團練使
ノ名ヲ取タルモノナルヲ誤テ軍配團ヲ持ヿ

ト心得武者所ト云ハ京都院中ナトノ名目ナ
ルヲ誤テ太毅ノヿヲ稱シタルヿ展轉ノ違
ナレ𪜈古法ノ傳ル所是ニ付テ考ツベシ一万
石十六騎ト云モコノ割ヨリ起レリ實ハ一万石
百六十五人ニテ或ハ歩兵百六十五人或ハ騎兵
百六十五騎各事ノ宜キニ隨フヿナリ事ノ宜キ
ニ從フト云ハ豐饒ノ地或ハ原野ヲ帶テ草飼
フベキ便リアル地歟或ハ驛路ノ邊ナレバ騎兵
ヲ仕立ルヿ便リアリサナキ處歟或山國ニテ
險阻ナレバ歩兵ヲ用ルニ便リアリ故ニ一万
石百六十五人ヲ騎兵ニ仕立テ、百六十五騎

ニスル國モアルベシ歩兵ニ仕立テ、百六十五人
ニスル國モアルベシ日本國総知行高二千万
石ヨリ右ノ軍役ヲ出ス寸三十三万騎ノ數ニ
ツマル又古来ノ詞ニ六貫一匹ト云モ田地六十
石目ニ一騎ト軍役ヲ懸ルヿニテ異國日本ノ古
法ニ符合ス是ヲ軍役ノ定法ト知ルベキナリ而
ルヲ一万石十六騎ト云ヿハ上方ノ國々ハタタク歩
兵ヲ用タルユヘ令ノ定メ十人ヲ一火トメ内火
長一人其頭ナルユヘソレバカリヲ馬ニノセテ十
六騎ナリサレバ近来兵家者流ノ定メニ五十
騎一備ノ人數足輕陪卒カケテ五百人ト云

モ此割ナリ近來騎戰廢レテ騎馬ノ武者ト云モ皆名目バカリニテ物前ニナレバ皆馬ヨリ下立テ歩立トナル寸ハ右ノ歩兵ノ法ニテ主人ヲ火長ト見テ陪卒ハ歩兵ナリコノ歩兵モ主人ト一面ニ備ヘ戰フベキヿナリ又陪卒ノ内弓鉄砲ニ長ズル輩ヲ抜出〆別ニ頭ヲ付テ足輕ニ用タリト見エタリ是ニヨリテ知行高ニ應〆陪卒ノ數ヲ定〆是ヲ軍役ト云モ戰ニ用ル故ナリ而ルニ近来誤テ陪卒ニハ具足箱草履挾箱鑓ナドヲ持セ是ヲ使令ノ役ニ供シテ戰士ノ列トセザルユヘ軍ノ

時ハ無用ノ人ニ兵粮ヲ費サレ且又武士ヲ城下ニ聚ルユヘ百姓ノ外ニ別ニ武士ノ家来ト云モノ出来〆一枚ノ手形ヲ便リト〆太平ノ法度ヲ以テシバリ置故軍役ノ名ニ背キ戰士ノ數減少スルヿ不吟味ノ至リナリ扨右ノ如ク軍役ノ割ヲ定置テ此上ニ主人ノ藏入ヲ引ベキ定法ハ四分ノ一ト心得ベシ其子細ハ　吾邦古ノ租税十分一ナルヲ武家ノ代ニナリテ兵農分レ武士ト云モノ出来テ朝家ノ租税ヲハ押領〆地頭四分百姓六分ニ租税ヲトル然レ𪜈其地頭四分ノ内一分ハ朝

家ノ租税ニ〆此内ニテ國司ノ祿其外ノ國用マデニ用テ元来不足ナカリシヿナル故四ツモノナリニ〆一万石ノ地ノ租税現米四千石俵ニ〆一万俵ノ四分一現米千石ヲ君ノ禄ト定〆残テ現米三千石ヲ家中ノ士百六十五騎ノ祿トスル寸ハ一騎前ニ四十五石ノ知行ヲ與ヘテ古六貫目ノ田地ヨリ朝家ノ租税ヲ出〆其餘ニテ一匹ノ役ヲ勤タル割ニ叶ナリ或曰三百石ヲ騎馬ノ武者ト定ムルヿ當時兵家者流ノ説ナリ而ルニ六貫目ニテ馬ヲ持ツヿ心得ガタシ答テ曰三百石騎馬役ト云ハ當時

御城下ニ武士ヲ聚置カレ諸大名モ己カ城下城下ニ聚置ク世ニ相應スル様ニ兵家者流ノ積リタル説ニテ全ク武道不案内ノ妄説ナリ六貫一匹ト云ハ古土着ノ時ノ古法ニテ此軍役ヲ以テ日本國中ノ総軍兵三十三万騎ト云數ニツマル三百石騎馬役ト定ムル寸ハ僅ニ六万六千騎ナリソレモ主人ノ藏入歩兵足輕ノ料ヲ引テ一万石十六騎ノ割ニナリテ僅ニ三万三千騎ナリソレモ又武士城下ニ聚居ルヿ年久キユヘ奢侈日ニ長ジ物價次第ニ貴クナリテ今時ハ三百石ニテモ馬持ツヿナリガタ

ク其大將モ一万石十六騎ノ軍役ヲ出スヿナリガタク成行クハ土着ノ古ニ返ラズシテ當分ノ渡世ノ上ニテ定ムルユヘ不易ノ定法ニ非ス土着ノ古ニ返サヾル寸ハ軍兵日ヲ逐テ減少シテ武道滅却スルヿ明カナリ武士土着スル寸ハ衣食住ニ物入ルヿナシ風俗自然ト質素ニナリテ城市油滑ノ風習ヲハナレ濵海ノ地ニ非レバ魚類不自由ナルユヘ鳥獸ヲ食スベキ营ニ弓鉄砲ノ藝自然ト精クナル親戚朋友ノ訪問ニハ五里六里乃至十里二十里ヲモ常ニ往還スルユヘ馬ニ騎習レテ自然ト馬達者

ニモナリ又地理ヲ能諳ンジ山谷河海ヲ馳メグリテ事情ニモヨク通達ス召仕者モ己カ領知ノ百姓ノ内ニテ見立使立年來ノナジミ厚クナリ其上其妻子一族膝元ニ居住スレバ人質トナルユヘ先途ノ役ニモ立ツナリ城下ヘハ三月半年ノ勤番ヲ軍役ノ人數ヲ以テ勤ルユヘ主君ノ武備ニハ却テ甚宜キナリ愚ナル大將ハ家中ノ士城下ニ居住スルヲ鬧(ニギヤ)カナルヿニ思フベケレド事出来ル時節又ハ平日火災等ノ節モ妻子家財手足マトヒト成故却テ騒動ヲ生シ火ヲ消スヿモナラズ

勤番ノ武士ハ男住居ノ旅宿ナレバ何事モ手バシカクテ奉公モ思様ニナルベシ是又土着ノ益ナリ又在々ニ強盗一揆ノ起ルモ武士居住セザル故ト知ルベシ扠馬ヲ持ツモ當時ノ人ハ馬ニハ豆ヲ食ハスル物トバカリ思ヘドモ古ハ士ニ領地ヲ與ルヲ馬ノ草飼料トノ賜ルト云詞アリ是ハ武士ハ馬モ百姓ノ馬ト同ク野ノ草ヲ食セテ養フヿ古法ナリ草ヲ飼テ養タル馬ハ健ナリ當時ノ上馬トテ豆ニテ養置タル馬ハ肥フトリ毛色ツヤノ麗シキマデノヿニテ却テ弱クナリ病出テ常ニ使

習シタル馬ハ達者ニテ上馬トテ廏ニ立置タル馬ハ不達者ニテ長途ヲ行ヿ不能ト云ヿ當時武道衰廢ノ世ニハ人ノ知ラヌヿナリ此差別ヲ會得スル寸ハ六貫一匹ト云ニ疑アルベカラズ或曰家中ノ士ニ高下ナク四十五石充知行ヲ充行シトセバ當時諸大名ノ家中ノ諸士父祖ヨリ相傳ノ百石二百石三四五百石ヨリ乃至千石二三千石四五千石モトルモノアルヲバ削減スルヿ難カルベケレバタトヒ土着ニ返シタリトモ六貫一匹ノ古法ハ行難カラン答曰六貫一匹ハ軍役ヲ懸ル割ニテ総並ニ

四十五石ヅヽニスルト云ヿニ非ズ百石二百石三四五百石乃至千石二千石三四五千石トル諸士ヲバ其相傳セル祿ヲバ其儘ニ與ヘヲキテ此割ヲ以テ役ヲ懸ケテ陪卒ヨリ騎馬ヲ出サスルヿハ指支ルヿナシ尚又百姓ヲ騎兵ニ仕立テヽ出サバ二十石目持タル百姓ニ年貢ヲ免ズ僅ニ現米八石ノ充行ニテ四十五石ノ知行ト同斷ニナルユヘ其主人ノ心懸ケニヨリテ騎馬ノ數ハ此割ヲ以テ如何程モ出サルベキナリ又足輕ニハ十石目持タル百姓ニ十俵ノ年貢ヲ免サバ不足アルマジキナリ尚右ノ

割ハ地戰ノ積リニテ一日路二日路三日路ニテノ軍役ナルベシ長途ノ軍役ハ關東ヨリ京都中國九國ト三段ニ分ケテ人數ヲ減シ在國ノ士ヨリモヤヒヲ出ノ勤サスルヿハ手支アルマジキナリ畢竟武士ノ本ハ農民ナリ武士ノ所作ハ弓馬𪜈ニ土ノ上ノワザナリト知ルベシヿヲ忘ルヽヿハ武道日ニ衰フルナリト云

或曰総知行ノ四分一ヲ國主ノ藏入ト定ムルヿ今ノ世ニ於テ甚不足ナルベキハ如何答曰當時御城下居住ノ諸大名ノ身上ヨリ見ルユヘ此不審尤ナリ諸大名御城下ニ居

住スル寸ハ何レモ皆旅宿ノ境界ナルユヘ衣食住一切ノヿ皆金銀ニテ買調ルヿナレバ領地ノ年貢ヲ沽却メ金銀ニノ御城下ヘ持來リ使フナリ是ニヨリ商人諸職人御城下ニ聚ツドヒテ其自由ナルヿ甚シキ故奢侈日々ニ長ジ就中婦女ノ奢以ノ外ニ超上ス此上ニ公儀ヨリ不時ノ公用ヲ懸ラルヽユヘ世移リ風俗末ニナルニ隨テ其費用ノ程限量ヲナシ難ケレバ一定ノ割曽テアルマジキナリ土着ノ古ニ返ル寸ハ衣食住共ニ其領地ニテ事足ヿナリ食物ノ米穀ハ云ニ及ハズ菜菓

ハ菜園樹木畠ヲ設テ種サセ鳥獸魚介ハ漁人獵師ノ役ニテ是ヲ出シ酒醬ハ厨下ニテ造ラセ衣服ハ公宮ヨリ諸士ノ家マデ婦女ノ役トノ絹布ヲ織出シ百姓ヨリ調布(テツクリ)ヲ出サセテ事足ルベシ宮室ハ山林ヲ立サセ炭瓦ヲ燒セテ工匠ノ役ヲ以テ造スベシ百工ハ皆足輕ノ兼役ニテ是ヲ用ユ普請ハ百姓ノ夫役ナレバ諸士ヨリモ夫ヲ出サセテ物入ナシ大工塗師ノルイ古ハ在々ヲ巡リテ細工ヲ仕懸ケ先々ヨリ往還メ月日ヲ積テ成就スルユヘ家居器物モ丈夫ナレバ破壞スルヿ難ク

其利莫大ナリ畢竟土着ノ世ハ物ヲ買求ルヿナリ難キユヘ人々物ヲ兼テヨリ仕立置テ年ヲ經テ後ノ用ニ立ル心ニナルニ今ノ世ハ買求〆テ當分ノ間ヲ合スルヿ世ノ風俗トナリ人ノ心バヘニ替アルヨリ田舎ノ百姓マデモ林ヲ立ルヿヲ不知〆材木ヲモ　御城下ヨリ買求〆木綿ヲ作ルヿヲ忘レテ京都ヨリ買求〆或ハ蚕ノ業ヲ不知郷村モ多ク何事モ御城下ノ風俗田舎マデ移行テ商人盛ニナルユヘ金銀ノ通用ニテナラデハ渡世ナリ難クテ國主ノ藏入モ諸士ノ渡世モ次第ニ手

バリ行クナリコヽノ界ヲ會得セバ四分一ノ藏入ニテ不足ナキヿ明カナリ尚又作毛ノ外其土地ノ物産又ハ百工ノ上手ヲ仕立置寸ハ工商ノ利ヲ以テ國ヲ富ス術モアルベシ是等ハ神ニテ而明之存乎其人ト云ヘル本文ノ意ヲ會得〆人々ノ才覺ヨリ出ルヿナレバ定マル割ノ外ノヿナリ

一大名ノ身上ヲ幾十万石ト云ヒ平士ノ身上ヲ幾千石幾百石ト云ヿ古法ニ非ス大形信長秀吉ノ時ヨリ起ルト見ヘタリ古ノ領地ノカキ物ヲ見ルニ何郡何ノ郷何村ニテ幾

十町幾百町ナド、アリテ石高ハナシ武士ノ知行ヲ幾十貫幾百貫ト云モ當時モ百姓ノ詞ニ殘リテアリ田一坪ニ苗一把種ルヿニテ百坪ニハ百把ウユ是ヲ百目ト云フ千坪ニ千把ウユ是ヲ一貫目ト云此積ニテ大抵十貫ハ百石百貫ハ千石ニ當レ𪜈上下田ニヨリテ一定セズ是古法ナリ扨俸禄ヲ石高ニテ定メタルヿハ其起リ浪人衆ヨリ出タリ浪人衆ト云ハ本領ヲ離レテ他國ニ仕ル者ヲ云フ當時無祿人ヲイフ類ニハ非ス甲州ノ浪人衆名和無理之助ガ類是ナリ昔ハ本領

案堵ヲ士ノ本意トスル習ハシナルユヘ其國ヲ切取リ手ニ入レテ後ニ本領案堵サスベキト云ヿニテ當分廩米ヲ與ヘ是ヨリ〆士ノ祿ニ石高ヲ以テ定ムルヿ起リ信長秀吉ノ時分ニ至テハ日本國中ノ士皆本領ヲハナレテ家家ヘ散亂シタルユヘ一面ニ石高ニナリタルナリ當時モ古キ家ニハ新參者ニハ廩米ヲ與ヘ家ノ譜第ニナリテ知行所ヲ與ルヿノアルモ此遺風ナリ且又四物成三ツ五分物成ナド、云ヿハ元來百石ト云ハモミ百石ナリ米ニ〆四十石アルモアリ三十五石アルモアルヨリ四

斗俵三斗五升俵ナド、云ヿ出來セリ古ハ皆
モミニテ納ナリ武家ニ兵粮ヲ貯置クハ皆モミニテ
貯置クヿ古法ナリ故ニ
東照宮ノ御筆ノ物ヲ御旗本ノ家ニ所持シタ
ルニ誰々ニモミ幾俵幾俵トカキ給ヘルガ多
キナリカクノ如クナル子細ナレ圧今當時ノ
風俗ニ合セテ右ニハ石高ノヿヲ云ヘリ古ヨリ
石高ト云ヿアリトハ思フベカラズ
右制賦ノ一巻ハ戚南塘ガ兵法ニモナキヿナ
リ又和軍ニモモトヨリ是ナキヿナレ圧是軍
法ノ大本ナルユヘ愚按ヲ以テ是ヲ述ス愚按

トテモ和漢ノ古法ニ本ヅクヿナレバ全ク杜
撰ニ非ズ學者疎ニ心得ベカラズ又謙信流
ニ日本國総人數ノヿ四万五千騎トアレ圧無稽
ノ妄説也ト知ベシ孔子ノ御詞ニ庶富教ノ三
ノ次第ノヿ論語ニ見ヘタリ是治國ノ大道ナル
ユヘ即軍學ノ至極ナリサレ圧當時ノ儒者ハ
治國ノワザニ疎キユヘ空理ニ是ヲ説ナシテ聖
人ノ深意隠レタリ嘆シキヿナリ第一ニ庶ト
云ハ國ニ軍兵ノ數不足ナキヤウニスルヿナリ
是即此制賦ノ巻ノ意ナリ庶ハ衆庶ノ義ニテ
人數ノ多キ心ナリ國ノ治メハ國中ニ人數ノ多

キヤウニナルヿ第一ナリ當時ノ愚ナル學者ハ城下ニ工商多ク聚マリテ繁昌シ武家ノ家居ヲ作リツヾケ袴着タル若黨中小姓手フリ奴ノ澤山ナルヲ見又田舍ニテモ商人多入込テ繁昌スルヲ孔子ノ玉ヘル庶アリト云ニ叶ヘリト思フハ以ノ外ノ僻事ナリ其子細ハ古ハ武家皆知行所ニ居住〆在々ニ遍滿シ皆々土ニハヘ付タル草木ノ如クナリ故ニ楠ナド其外ノ家々度々城ヲ落サレ沒落〆モ子孫其所ニカラマリ居テ幾代モ不絶ヒタモノニ旗ヲ擧テ家ヲ取興セシヿ是武家土ニ付

タル威德ナリシカルヲ信長秀吉日本一統シ玉ヘル寸甚是ニ難儀ス是ニヨリ敵國ヲ攻從ヘ其將降參スレバ所替國替ト云ヿヲサセテ地ヲハナルヽ様ニシタリ是ヨリ〆士ヲ知行所ニ置寸ハ所替ノ節不便利ナルユヘ皆城下ニ士屋敷ヲ立テヽ集置ツヿニナリタリ士ヲ城下ニ集置キ見レバ昔在々ノ知行所ニ置ケル時トハ替リテ立廻モヨクナリ行儀モヨクナリ又城下ニ大勢居ルユヘ是ヲ召使フニ自由ナルユヘ大將モ是ヲ悦ブ又士ノ召仕家來モ城下ナレテ利口ニナルユヘ士モ是ヲ悦ビテ

便利ナルヿニ思ヒ始メハ遠國ニハ知行所ニ居ル士モ多カリケレ𪜈次第ニ城下ニ居住シ今ハ大形日本一統ニナリタリ如ㇾ此ナリ堅一ヽリタランニハ此以後亂世ニナリテ割據ノ世界ニナリタラン寸敵ニ城ヲ攻落サレタラバ一敗塗ㇾ地トヤランニ云如クニテ其城下ニ住居セシ武士ノ種ハ盡クニ滅却スベキゾ悲シキ其子細ハ小身ナル士城下ニ居住〆ハタトヒ知行處ヲ持タリ𪜈知行所ノ治メハ努々ナラヌヿナリ只年貢ヲ取バカリヲ地頭ノ所作ト覺居ルナリ其百姓モ地頭ハ年貢ヲ取ル役ノモノトバカリ覺居

テ地頭ハ少モ多ク取ントシ百姓ハ少ク出サントト思入テ互ニ取ランヿ取レジノ争ノ外ハ更ニ他事ナケレバ地頭ト百姓トハ當時ノアリサマ仇敵ノ如クナリサレバ其城落城シタル寸其武士知行所ニカラマリ居ルヿハ曾テ不ㇾ叶皆百姓ニ打殺サルヽベケレバ一敗塗ㇾ地ニハ非スヤ且ヘ知行所ニ居スル寸ハ武士モ百姓ノ風俗ノ如クニテ譜第者ヲ澤山ニ持居ル譜第者ハ家内ニテ生レタルモノニテ幼少ヨリ主人ノ妻モ我子ノ如ク憐テ是ヲソダテツレバ主人ヘナジミ深シ追出シテモ行ベキ先ナシ恩ニア

丅ヘテメンドウナルモノナレドモ其主人モ百姓
ノ心ノ如ニテヨクメンドウヲ見ルユヘ先途ノ
役ニ立ツヿナリ武士城下ニ集居ヿニナリタ
ル後ハ召仕ノ利口ヲ好ム心ヨリ譜第者ヲ
召仕フヿヲ嫌ヒテ皆出替者ヲ召仕フヿニ
今ハナリタリ出替者ト云ヿモ元來田舎ノ
百姓ノ家ニアルヿ也皆近村ノ百姓ノ身上ノ
ナラヌヲ召置クヿナルユヘ其者ノ親類親子
地ニ着テアリ田宅モアレバソレヲ棄テヽ逃
走ルモノニ非ズナルホド慥ナルモノナリ城下
ノ武家ニ是ヲ召置寸ハ出替者ハ定マリタル

主人ニ非レバ十方旦那ノ心ニテ主人ヘ思入ル
ルヿナシ年季アリテ出替ルユヘ年久シキナジ
ミナシ剰ヘ遠國ノフテシナル者ヲモ城下ノ商
人ヲ請人ニシテ手形一枚ニテ召置クヿナルユヘ
治世ニ公法ノ立ツ内ハ手形モ用ニ立テドモ亂世
ニ至リテハ公法ハ用ニタヽズ他國ヘ踏出シハ
皆途中ニテ欠落スベシサレバ只男ブリ口先
ノ利口ヲ取テ召置キタル中小姓徒ノ者抔
ノ闊カニ城下ニアレバトテ軍役ノ用ニ立タ子バ
孔子ノ玉ヘル眞ノ庶（モロく）アリト云ニハ叶ハヌヿ
ナリ又城下ニ商人ノ多ク聚マルヿハ武士知

行所ヲハナレ城下ニ居ル寸ハ平生ノ身持士ケヲハナレテ自然ト奢美ニナル奢美ニナラズトテモ城下ハ箸一本ニテモ買調ヘズノ朝タヲ送ルヿ不叶ユヘ城下ニ商人次第ニ多クナルヿ必然ノ理ナリ商人次第ニ多集テ城下自由便當ニナルニ隨テ武士ノ奢彌盛ニナリ年貢ニ取タル米ヲバ其年切ニ悉賣拂ヒテ商人ヲ頼テ用ヲ足シ世ヲ送ルユヘ米ノ貴キヿヲ人々皆忘レテ金ヲ貴ブ人ノ心ニナリタリ畢竟ノ處國主ノ士ヲ養フベキ爲ノ俸祿ハ商人ヲ養フヿニナリテ武士ノ

身上ハ皆商人ニ吸取ラルヽヿ當時ノ有様ナリ是ニヨリテ物價次第ニ貴クナリ武士次第ノニ困窮ノ人馬ヲ軍役ノ通リニ持ツヿ今ハナラヌヤウニナリタリ百姓ハ雑穀ヲ食シ年中勞苦ノ世ヲ送ルニ商人ハ白米ヲ食シ骨折ズ世ヲ送ルユヘ今城下ノ風儀田舎マデ移リテ田舎ニモ商人多クナリタリ國中ノ民ハ百姓ノ外ハ皆武家ノ家來トナリテ軍役ヲ勤ムベキ者ガ今皆商人トナリタレバ庶ハ庶アレ𪜈軍役ノ用ニ立タズバ眞ノ庶アリト云モノニハ非ルト知ベシ第二ニ富スト云ハ武士ト百姓トノ富

ムヿナリ武士ト百姓トノ富ト云ハ其國ニ米ヲ貯置クヿナリ今ハ米ヲバ悉賣拂テ金ニメ商人ヲ養ヒ又商人ヨリ他國ニ送リヌ剰ヘ金モ其年切ニ使棄レバ國空虚ニメ貧ニナルヿ右ニ云ガゴトシ且ヘ今世ハ工商混メ一ツニナリ工ヲモ商ヲモ町人ト是ヲ名ヅク是又國貧ニナルユヱンナリ総メ古ハ百工ヲ其國ニ仕立置テ是ヲ用ヒ他國ノ百工ノ作タル物ヲ商人ヲ頼ミテ金ニテ買調ルヿハナカリシナリ何事モ其國切ニ用ヲ足スヤウニセザル寸ハ乱世割據ノ時ニ至テヒシト手支ルノミナラズ商人勢

ヲ得ルユヘ物價次第ニ貴クナリテ國必貧クナルヿナリ百工ハ庶人ノ稟米ヲ食ムモノノスルヿナルユヘ戰國ノ比マデモ多クハ足輕ノワザナリ普請ドウヅキハ足輕并ニ武家ノ家來ニサスルヿニテ日庸ヲ倩フト云ヿハ昔ハナキヿナルニ今ハ足輕モ武家ノ家来モ驕リテ是ヲセズ日庸ヲ倩ヘバ物入莫大ナリ農民ニサスレバ農作ノ妨トナル日庸ヲ倩フユヘ游民其所ニ聚マリテ米穀ヲ食費シ武家ニ仕ユルヿヲ嫌ヒテ皆游民トナルユヘ人民ハ多ケレド軍役ノ用ニ立ヌヿニナリユ

ク是皆庶富ノ二ヲ知ラヌユヘナリ第三ニ教ト云ハ軍法ノナラシナリ孔子ノ玉ヘル教ト云ヲ仁義五常ヲ講釋ノ教ルヿト今ノ世ノ儒者ノサヘヅルハ以ノ外ノ僻事也古ニ孝悌忠信ヲ教ユルト云ハ上タル人ノ治メカタニヨリテ自然ト孝悌忠信ノ風俗厚クナルヿニテ全ク講釋ヲシ教ルヿニ非ズ其上庶富教ノ教ハ孔子ノ「不教民ヲ以テ戰フハ民ヲ棄ルナリトノ玉ヘル心ニテ軍法ヲ教ルヿナリ軍法ヲ教ユルト云ハ軍法ヲ説テ教ユルヿニ非ス軍法ノナラシヲ仕込テ士卒ノ

身ニ覺ユルヤウニスルヿナリ是卽下ノ操練ノ諸巻ニ述タルトコロナリ今ハコノナラシナキユヘ弓鉄炮ハ獵師ニ劣リ馬ハ牧士ニ劣ルヤウニ武士モナリタリ下卒マデニ仕込ムベキヿハ旗鼓ノナラシナリ士分以上ノ人ハ隊長以上ノ職ナルユヘ人數ノ使樣合戰ノ仕樣遠クヨリ見テ人數ノ多少ヲ積ルヿ備ヲ立ル間數ノ場積リ是等ヲ第一トスベシ山川地理ノ案内諸事ノ功者寒暑ニ身ヲ錬リ労苦ニ堪ルヿハ知行所ニ住居スレバヲノヅカラナルヿナリ

鈐録第一終

内閣文庫

国立公文書館
National Archives of Japan